

住宅の床材などを生産

知的障害者の就労の場作り
社会復帰訓練を支援

平の丸玉産業(本社・

北海道網走郡津別町)舞

鶴工場天越敏弘工場長

が、障害者の雇用の機会

をつくらうと、鹿原の知

的障害者授産施設「みず

なぎ学園」の園生たちを

受け入れている。園生た

ちは月曜から金曜日まで

三つのグループが交代し

て、梱包材を再利用する

ために解体する作業に取

り組み、仕事へのやり甲

斐を感じている。

仕事は輸入合板の梱包

材を解体する作業。梱包

材はこれまで燃やして捨

てていたが、昨年から荷

物を積み際の緩衝材とし

て加工する再利用を図っ

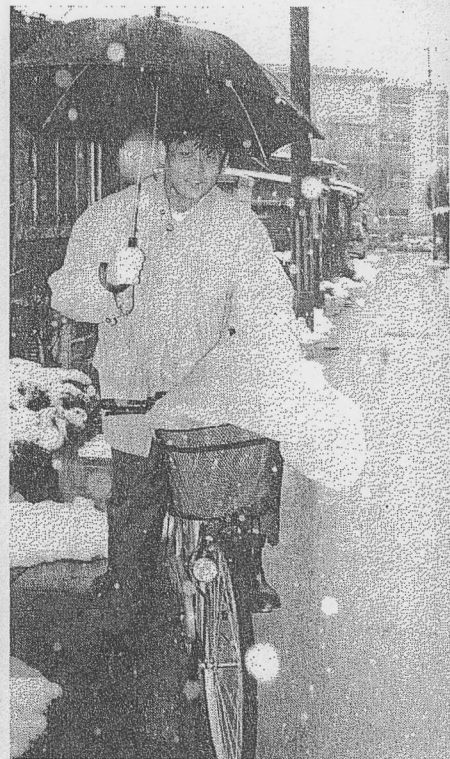
ている。園生の五人と指

業場
産工
鶴舞
丸玉

仕事へのやり甲斐を実感!!

「みずなぎ学園」園生受け入れ

雪中、配達するメンバー＝出版された「いらっしやいませ」



フォーラムの成果を参加できなかった人にも知ってもらおうと、その発言などを記録した本を企画。授産施設の事業であるレストランが好評であることから、同店の実践報告も加えることにした。フォーラムの講演者でもある国立精神・神経センター総長の高橋清久さんも、編者として協力した。

安野さんは一月の全国高等学校選抜卓球選手権大会府予選会で優勝した。府内の強豪校の選手が団体戦に出場して、個人戦は欠場したこともあったが、準決勝まで一セットも落とさず、決勝

導員が一つのグループとなつて、毎日午前十時から午後三時まで、一日百個の解体を目標として取り組んでいる。社員の指導でハンマーで解体し、止めがねの鉄を外した後、木材を積み重ねていた。出来高制で賃金を払っている。

同工場生産技術部の小林永政部長(57)は「何か地域に貢献できることをと申し出ました。皆さんがんばって仕事をしてもらっており、会社も助かっています。今後これをきつかけに雇用を考

えていきたい」と作業を見守っていた。指導員の西尾雅治さん(24)は

「園生は仕事ができる充実感を得ています」と話している。



梱包材の解体作業をする園生ら

舞鶴若狭自動車道

3月9日に開

舞鶴東IC—小浜西

日本道路公団が建設を進めていた近畿自動車道敦賀線の舞鶴東IC(インターチェンジ)—小浜西IC間(延長24.5キロ)が、三月九日に開通する。供用開始は午後三時。開通に合わせて、吉川JCT(ジャンクション)から小浜西ICまでの名称は、これまでの舞鶴自動車道から「舞鶴若狭自動車道」に変更される。

堂奥の舞鶴東ICと福井県小浜市岡津の小浜西ICを結ぶ高速道路で、途中に舞鶴パーキングエリアを設けているほか、大飯郡大飯町に大飯高浜ICがある。平成五年十一月に施工命令が出され、建設が進められていた。暫定二車線で幅員十二メートル。事業費は約千二百億円。



また、一月の近畿高校新人大会では、安野さんと有本さんはダブルスで出場し、和歌山県で一位の高校を破るなどして勝ち上がり、近畿ランキング六位に上昇する活躍を



活躍を見せる安